

レーモンドが設計?「山手133番館」保全へ

横浜の会社社長が購入

歴史的な洋館が並ぶ横浜市中区山手地区にあり、取り壊しの恐れもあった「山手133番館」を民間の力で保全しようと、地元の土産菓子製造販売「三陽物産」が購入した。この建物は、西洋の近代建築を日本に持ち込んだ建築家アントニン・レーモンド（1888～1974年）が設計した可能性もあるという。

（志村彰太）

一般公開も検討 目指せ「歴史的建造物」

土地は七百九十平方㍍。建物は木造二階建て、延べ二百八十七平方㍍。5LDKの母屋と、使用人が住む離れで構成されている。装飾を排した質素な外観と備え付けの収納と家具、本牧方面を見下ろせるテラスなどが特徴だ。敷地境界に「プラフ積み」の石垣もあり、明治時代に造成されたとみられる。

賃貸で人が住んでいたが、数年前から空き家だった。同社の山本博士社長

（五〇）は五月、インターネットで土地と建物が売りに出されているのを見つけ、「このままでは取り壊され開発されてしまう」と危機感を覚え、買い取った。

山本さんによると、建物は少なくとも一九二〇年以前の建築とみられる。当初は昭和シェル石油の前身の会社が使い、戦後は日本

133番館のデザインは人



上 山手133番館を示す山本社長
下 建物内部=いずれも横浜市中区で

レーモンド設計の他の建物と似ており、三陽物産は情報を探り、詳細を調べる。レーモンドはエリスマン邸（中区）や聖路加国際病院（東京都中央区）旧館など

の設計で知られる。同石油会社が山手地区で借りた三つの建物のうち、133番館を除く二軒はレーモンドの設計と判明している。

横浜の近代建築に詳しい横浜都市発展記念館の青木祐介副館長は「状況証拠はあるが、資料などで客観的に裏付けられなければ確定できない」としつつも「レーモンドの設計だとすれば

建物の状態は悪くないものの、内外装に手が加えられている。山本さんは「買い取れて良かった。レーモンドの設計と分かれ、さらに歴史的価値が高まる。これから調査していきたい」と胸を弾ませている。山本さんは、近

